

あなたの「まなび」をナビゲート！ enjoy lifelong learning

ma·navi

鳥取県生涯学習情報誌

生涯学習とっとり
vol.
204
2023.1
学びから行動へ、行動から学びへの循環



ボランティアスタッフは、近所の住民

特集

住民の「熱意」と「誇り」が、 まちの力に

NPO法人 塩谷定好フォトプロジェクト(琴浦町赤碕)

- 04 私たちの活動をご紹介します！
菜の会(南部町)
- 05 とっとり県民カレッジ連携講座情報
(1・2月)
- 23 社会教育・生涯学習担当者紹介(境港市)
- 24 出前講座「魔法の板“カプラ”で遊ぼう！」を
開催しました
- 25 鳥取県立生涯学習センター(お知らせ)
- 27 みてみて♪こんなしとするで～



琴浦町赤碕にある「塩谷定好写真記念館」。北前船の寄港地として栄えた赤碕で代々廻船問屋を生業とした定好の生家。明治39年の建築で、国の登録有形文化財です。



左から、塩谷晋さん（館長、定好の孫）、田中満雄さん（理事長、元赤碕・琴浦町長）、田中正人さん（副理事長）

住民の「熱意」と「誇り」が、まちの力に

～ NPO 法人 塩谷定好フォトプロジェクト～

きっかけは、町長の想いから

「塩谷定好さんの存在は、とても大きい」。そう話すのは、NPO 法人 塩谷定好フォトプロジェクト理事長の田中満雄さん。今から30年ほど前の赤碕町時代、町内に定好作品の展示施設をつくるのが検討されました。しかし、このときは財政的な課題等があり実現しませんでした。

その後、平成7年に植田正治写真美術館が岸本町（現伯耆町）にでき、また、県の動きで県立美術館構想が浮上。定好の孫である塩谷晋さんは、県立美術館ができれば定好作品が展示されるのではと期待しました。しかし、県立美術館構想は一旦中止。それならば、定好作品の展示施設を赤碕につくりたいという想いが住民の間に沸き起こったのです。

まず、定好の名を世に出すため、田中さんが琴浦町長だった平成22年、定好に第1号名誉町民の称号を贈り、その業績を顕彰しました。翌年9月には、田中町長（当時）を会長として、発起人20名と

想いを共有する150名で「塩谷定好写真記念館設立準備会」を結成。生家を写真記念館に整備し、あわせて建物は登録有形文化財制度を活用し町の文化的遺産として保存活用を目指すというものです。

そして、さらに翌年、NPO 法人 塩谷定好フォトプロジェクト（以下、「フォトプロジェクト」という）を設立。平成26年4月、塩谷定好写真記念館がついに開館し、現在、ボランティアスタッフ約40名で運営・維持・管理を行っています。

コミュニティスペースとしての機能

フォトプロジェクトは、田中満雄さんを中心に地域の方で結成されました。「本当に人材に恵まれていて」と理事長の田中さん。副理事長の田中正人さんは建築関係の法手続きに精通しているほか、金融機関に勤めていた方や行政手続きが得意な方など、それぞれが知恵を発揮している点もこのプロジェクトの特徴です。

写真記念館の運営には、中心メンバーを含む約40名の住民が関わります。「皆さんほぼ近所の人で、完全に無償です」と晋さん。「自分たちの力で地域を盛り上げたいという熱意があり、自分の時間を有効に使いたいと思う方たち」と続けます。活動は、定好の写真や建物の解説、館内清掃、環境整備など多岐にわたります。

また、写真記念館は、地域の方の文化活動を発表する場にもなっています。「小さなまちですが、絵を描く方や織物をする方など、いろんな技を持った人がいて。この前もちぎり絵の作品展をしました。それから、落語など外部の持込み企画や地元のウォーキングイベントにも協力しています」と話します。

さらには、地域の集まりに写真記念館を使ってもらうことも。「ここはエアコンがきいていてくつろげる。地域の方の居場所」とにっこり。来館者は、常駐するボランティアスタッフとの会話を楽しみ、ゆったりとした時間を過ごすなど、写真記念館は地域のコミュニティスペースとしての機能も果たします。

「生活パターン」になることの重要性

ボランティアスタッフは、当番制で運営に協力します。週1回の方もいれば、複数回の方もいます。「ここに来ることが一つの生活パターンになっていて。歳をとると、社会の中に自分の役割があることが生きがいになる」と、副理事長の田中さん。「歳をとっても自分を必要としてくれるところがあるのは、とても大切なこと。ボランティアであるけれども、責任を持ちながら関わっている。だから無償がいい」と晋さんも笑顔で話します。

とっておきのエピソード

フォトプロジェクト理事長 **田中満雄**さん

私が赤碕町長時代に植田正治さんが訪ねてこられ、「塩谷定好さんは、私の本当に尊敬する先生。神様のような存在だった」と言われました。このときから、定好さんをわが町で顕彰したいという想いがあったので勉強すると、すごい人で。地元の私どもが勉強不足だったことを反省しました。当時すでに有名だった植田正治さんが師と仰ぐ定好さんを、埋もれさせてしまっている！なんとか世に出したいとずっと考えていました。

写真記念館館長 **塩谷晋**さん

定好が活躍したのは、昭和の初め。そのころは、写真関係者はだれもが知る有名な写真家でした。しかしながら、戦争があり世代も変わり、新人と同じようなものです。

写真記念館ができる前は、定好の写真集は2冊だったのが、今では6冊に。定好への再評価が近年急激に高まったことがわかります。



写真を解説するようす



庭の草とり作業



フォトプロジェクト副理事長
たけおより のぶ
武尾頼信さん

毎日午前中に来て、草とりを担当。手入れされたお庭は武尾さんのおかげ」と、みんなが頼りに！



フォトプロジェクト副理事長
うまの ゆういちろう
馬野勇一郎さん

この日は、写真や建物の解説を担当。お客さんが何を求めて何に興味があるのか、顔を見ながら対応されるそう。



おたにじゅんこ
大谷順子さん

この日は、おもてなしスペースの運営を担当。お茶の先生でもあり、写真記念館でお茶席をされたことも。

取材時に当番だった
ボランティアスタッフの皆さん

観光施設と連携し、地域を活性化

写真記念館ができたことで全国から観光客が訪れます。「リピーターも多いですよ。それから、写真関係者はここを観た後、植田正治美術館に行くようです。最近では、建築関係者にも人気です」と晋さん。

また、近くには、龍の彫刻で有名な「神崎神社」や文豪・小泉八雲が新婚旅行で宿泊した「旧中井旅館」など、魅力的なスポットがあるため、引き続き町内観光施設との連携を図り、さらなる地域活性化にもつなげたいと考えます。

令和7年春には、鳥取県初の県立美術館が同じ中部の倉吉市に誕生予定で、定好作品も展示されるのではないかと期待します。「県立美術館で定好を知ってもらえば、写真記念館にもより多くの方が来館されるのでは。鳥取県全体が写真や芸術でますます盛り上がるとうれしい」と目を輝かせます。

学び コラム

塩谷定好ってどんな人？

塩谷定好 (本名：さだよし)
明治 32 年生～昭和 63 年没

東伯郡赤碓村 (現琴浦町) 生まれ。芸術写真の分野で日本の草分け的存在として活躍。海外においても評価が高い。単玉レンズのカメラ「ヴェスト・ポケット・コダック (通称ベス単)」を愛用し、「ベス単のフードはずし」と称された軟調描写 (ソフトフォーカス) が特徴。故郷を愛し、生涯にわたって山陰の風景や人々を撮り続けた。



詳しくは
こちらから

塩谷定好写真記念館

開館時間 9:00~14:00 [火曜休館]
入館料 一般 300 円 (中学生以下無料)
団体 200 円

塩谷定好作品展 後期企画展 2022

情景のかほり

令和5年3月27日 (月) まで



2階からは石造彫刻「波しぐれ三度笠」が見える。



作品の入れ替えるようす。半年ごとに入れ替わる。

写真展示スペースの常駐するボランティアスタッフが解説してくれます。



地域住民が作る正月の神棚飾

1月15日頃まで飾ってあるそう。



ここは定好の書斎だった部屋。各部屋で違った趣があり、観るのが楽しい。

※掲載写真は、団体が撮影したものも含まれています。

ボランティアスタッフ募集中！興味のある方はご連絡をお願いします (町外の方も大歓迎)

問合せ先

NPO 法人 塩谷定好フォトプロジェクト

〒689-2501
東伯郡琴浦町赤碓1568 塩谷定好写真記念館 内
TEL : 0858-55-0120
E-mail : teiko1899@gmail.com



ホームページ



Facebook

私たちの活動を紹介します

南部町

しおり 葉の会

<代表> 藤原 みどりさん

<連絡先> 南部町立法勝寺図書館

TEL (0859) 66-4463

<設立年> 平成 16 年 1 月

<会 員> 9 名

<活動内容>

- ① イベント開催の手伝い
- ② 図書館内の本の整理、廃棄等
- ③ 視覚障がい者への対応
- ④ 図書館からの依頼に応じて様々な活動を行う



葉の会のメンバー（この日は6名が参加）
活動場所は、キナルなんぶ内
〒683-0351 西伯郡南部町法勝寺341

図書館の応援団、始動

設立のきっかけは当時の西伯町立図書館から図書館ボランティアとして、サポーターになってほしいという要請を受けたことです。そして、ボランティアを頼むなら、グループの方が頼みやすいだろうということで7名のメンバーが集まり、会を発足しました。

活動内容は、「大人の図書館」「図書館まつり」などのイベントの手伝いのほか、布絵本やペープサート*作り、本の整理や、新聞記事の切り抜き整理など、多岐にわたります。

図書館を支えるメンバー

フルタイムの仕事をしている人、趣味での参加、さまざまなボランティアに参加している人など、多彩なメンバーで活動しています。本・絵本の好きな人の集まりなので、個々のペースを大切に、あまり手を広げず、無理なく楽しく充実した活動を、図書館の思いもくみ取りながら、継続しています。



新しい図書館に本を並べた後の片づけ作業

*ペープサートとは…厚紙でつくられた登場人物に割り箸状の棒を付け操る、日本で生まれた人形劇の一種。ペープサイドともいう。

新しい図書館は“キナルなんぶ”内に

令和3年5月1日（土）、図書館のリニューアルオープンにあたり、町内のボランティアの方と共に、新しい図書館内に本を並べたり、廃棄本を片づけたりといった活動を行いました。それはこれまでにない重労働でしたが、だんだんとでき上がっていく姿を見ていて、自分たちの図書館なんだという思いと、グループのメンバーが本当に本が好きなんだと改めて気づく、心に残る出来事でした。

活動を通して感じること

活動の一つとして、視覚障がいを持つ方のために町報や議会報を読み音声を録音する活動があります。正しい情報を伝えることを意識しながら、文字を声に出すことで、文章の表現力、読解力、漢字力、言い回しなどが勉強でき、良いことづくめです。加えて、新聞の切り抜きの整理をしながら町内の話題に気づかされたりと、誰かの役に立ちながら、自分自身の学びへとつながっていることを実感します。

長い活動期間を経て、メンバーも歳を重ねてきましたが、活動内容はあまり変わらず、メンバーが減ることもなく、健康で地道にコツコツと続けられたことは私たちの自慢です。



新聞切り抜き記事の整理作業